

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

11月6日に豪州のフレミントンで行われたG1メルボルンCをクロスカウンター(駆3、父テオフィロ)に騎乗して優勝。英国調教馬として初めてのメルボルンC制覇を実現した立役者となったケリン・マキヴォイ騎手(38歳)が、今月このコラムの主役だ。

南オーストラリア州の、アデレードの北東470キロほどのあるストリーキーベイという小さな漁村で、80年10月28日に生まれたのがマキヴォイだ。二十歳の誕生日を目前にした00年10月21日、レディマリオンに騎乗してG3トリスタークSを制し重賞初制覇。そのわずか17日後、ブリューに騎乗してG1メルボルンCに初参戦し、22頭立ての22番枠という致命的にも見えた枠順を克服して見事に優勝を果たした時には「シンデレラボーキ誕生」として、おおいにもて囃された。

これをきっかけに一流騎手の仲間入りを果たした彼が、再び強運ぶりを見せたのが02年9月22日だった。この日、コーエールド競馬場で行われた開催で、彼はメイン競走のG1ドバイレー・シングクラブCを含めて1日・4勝の大活躍を見せたのだが、これが後援企業の代表者としてたまたま現場にいたシェイクモハメドの目に留まり、ゴドルフィンから騎乗依頼を受けることになったのだ。1か月半後のメルボルンCで「ゴドルフィンのビーキャ

ーに騎乗して3着に好走し、シェイクの彼に対する信頼は揺るぎないものとなつた。

その後、ドバイ開催にスポット参戦した期間を経て、マキヴォイは「フランキー・

デトリーに次ぐ第2騎手として「ゴドルフィンと正式に契約。04年から5シーズンにわたって欧州で騎乗することになった、

04年9月にクライベ・ブリテン厩舎のウオーサンでG1バー・デン大賞を制し、欧洲G1初制覇を果たすと、その翌週には

ゴドルフィンのルールオ・ヴローでG1セントレジャーを制してクラシック制覇を達成、以降、シャマーダルで制したG1セントジエームズ・パレスS、ドゥバウイで制したG1ジャッカルマロワ賞など、ゴドルフィンの歴史に名を刻む名馬のパートナーとして10のG1競走を制している。

ゴドルフィンの欧州における現役馬を束ねていたサイード・ビン・スルールの下で、当時、厩舎長の立場にあつたのが、クロスカウンターを管理するチャーリー・アップルビー調教師でつまりは二人は旧知の仲であった。

ゴドルフィンが豪州における生産と競馬の組織を拡充させていったのと機を同じくして、マキヴォイも08/09年のシーズンから祖国にカムバック。この年のG1コ

ーフィールドCを「ゴドルフィンのオールザグッド」で制し、早速その存在感を地元のファンに見せつけた。

豪州に戻ることを前提に、マキヴォイ

はこの頃、キャシー夫人と結婚。1歳以下の夫人も元騎手で、十代の頃には同じレースで腕を競つたことが何度もあつたという。ちなみに、05年にプリンスオーバンサンズでメルボルンCを制し、女性騎手としての初優勝という歴史的快挙を達成したミシェル・ペイ・は、キャシー夫人の妹である。16年にはアルマンダンに騎乗して2度目のメルボルンC制覇を達成。16/17年シーズンの後半からクリス・ウォーラー厩舎からの依頼が増え、騎乗馬の質が益々充実。17年には南オーストラリア州で競馬の殿堂入りを果たすなど、騎手として数々の勲章を手にしていった。その一方で、家庭では4人の子宝に恵まれるなど、公私ともに充実していたマキヴォイに、さらなる高見が待ち受けていたのが18年の春だった。

10月13日、レッドツエルに騎乗して、芝の世界最高賞金競走ジ・エヴァエストを制覇。マキヴォイの懐もおおいに潤うことになった。

こうして迎えたメルボルンCの前日、マキヴォイはキャシー夫人に約束をしたそうだ。

「明日勝つたら、君や子供たちが念願している、プール付きの新しい家を買おう。」

メルボルンC翌日から、マキヴォイのもとには複数の不動産業者が日参している